

第 15 回 定期総会 議案書

平成 28 年 7 月 8 日

日本介護食品協議会

平成 27 年度事業報告書

自 平成 27 年 6 月 1 日

至 平成 28 年 5 月 31 日

1. 概況

日本介護食品協議会では、2002 年の設立以来、一般の利用者層へはもとより、医療、介護、福祉等方面に対しても、ユニバーサルデザインフードの啓発に真摯に取り組んできたが、超高齢社会の現状を見る通りそのニーズは今後ますます高まっていくことが予測される。食品製造業における「介護食品」分野への関心の高まりから、今年度についても協議会への加入問い合わせが相次いだ（会員数は期中過去最高の 73 社）。会員企業を対象に行ったユニバーサルデザインフード生産実績調査（平成 27（2015）年）では、引き続き生産数量、出荷金額は増加し、それぞれ 16,018 トン、201 億円（前年対比は各 122.1%、120.3%）と著しく増加した。内訳はスーパーやドラッグストア等の小売店、通信販売等の市販用が前年対比各 126.3%、117.2%、施設・病院給食等の業務用が同 120.7%、121.9%となっている。市販用については、卸売業や小売業において当該分野の食品に対する関心の高まりや理解が着実に進んでおり、特にドラッグストアでの取り扱いが増加している。また、ユニバーサルデザインフード製品登録数については、平成 28 年 5 月末現在で 1,784 品目（前年同期 1,524 品目）に達している。

平成 27 年度に実施した事業の概要について、まず、普及啓発事業ではホームページ制作を継続実施した。今年度は施設従事者向けページの一部コンテンツのアップロードを開始している。本事業は一昨年度より検討・制作を開始しているが、これにより、食品製造業・マスメディア向け、一般消費者向け、施設従事者向けそれぞれに対応するページが一通り完成した。学会や催事への出展では、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、メディケアフーズ展、JSPEN2016 等専門性の高い催事を活用し、製品展示、メニュー提案、試食、サンプリング等によりユニバーサルデザインフードの普及啓発に努めた。

次に、技術関連事業では、日本女子大学との共同研究により物性測定方法の検討や、学会発表（日本摂食嚥下リハビリテーション学会）を実施した。容器包装研究会では、ユニバーサルデザイン要件を満たした容器解説集を作成した。

組織強化事業では、農林水産省の「新しい介護食品」への対応、協議会加入条件の見直しへの対応を行った。

新たな介護食品の規格基準が提案されるなど、今後の介護食品産業を取り巻く環境は変化が予測される。これを受け、協議会では利用者が混乱なく製品を選択できるよう UDF マーク表示方法の見直しに着手した。

平成 27 年度における事業の詳細については以下の通りである。

※本議案書には「ユニバーサルデザインフード」を「UDF」と表記している箇所があります。

2. 会員の異動

期首会員数	72 (昨年度期末 68 社。期首加入 4 社・テルモ(株)、(株)ビーエムエス、海商(株)、オーケー食品工業(株))
期中加入会員数	1 (株)いちまる)
期末退会会員数	4 (岩手缶詰(株)、日本食品化工(株)、ポッカサッポロフード&ビverage(株)、森永乳業(株))
期末会員数	69

3. 会議開催状況

1) 全体並びに役員会

平成 26 年度監査会	平成 27 年 6 月 24 日 (日本缶詰びん詰レトルト食品協会)
第 14 回定期総会	平成 27 年 7 月 17 日 (ホテルメトロポリタンエドモント)
第 1 回理事会	平成 28 年 1 月 19 日 (日本缶詰びん詰レトルト食品協会)
第 2 回理事会	平成 28 年 3 月 29 日 (日本缶詰びん詰レトルト食品協会)
臨時総会	平成 28 年 4 月 27 日 (キューピー(株))
臨時総会後役員会議	平成 28 年 4 月 27 日 (キューピー(株))
第 3 回理事会	平成 28 年 5 月 25 日 (日本缶詰びん詰レトルト食品協会)
書面理事会	2 回

2) 委員会等 (計 55 回)

①事業進捗状況報告会	1 回
②組織強化 WG (正副会長打ち合わせ含む)	6 回
③区分問題タスクフォース WG	3 回
④普及委員会及び分科会	
全体委員会	4 回
多職種連携 WG	4 回
市販用 WG	1 回
業務用 WG	10 回
ホームページ WG	1 回
⑤技術委員会及び分科会	
全体委員会	8 回
UDF 試食会 WG	4 回
UDF 試食会	1 回
共同研究 WG	2 回
⑥容器包装研究会	5 回
⑦UDF 購買行動調査報告会	1 回
⑧関連団体連絡会議	4 回

4. 事業

1) 普及啓発事業

事業計画に沿って、消費者および栄養士・管理栄養士・ケアマネージャー・訪問看護師など各関連職種に対して、ユニバーサルデザインフードの普及啓発活動を積極的に展開した。また、今年度は在宅介護者への啓発を目的に市販用ワーキンググループを立ち上げ、在宅方面で活動する訪問歯科医師ならびに関連職種を通じた情報発信について検討を開始した。

具体的な事業としては、協議会ホームページの更新作業（継続）、ユニバーサルデザインフードパンフレットおよび「食べる力のサポートブック」の更新、ホームページを活用したキャンペーンの継続実施、学会や展示会への出展、社会福祉協議会などが主催する介護者等勉強会への協力などを実施した。

以下、普及啓発事業の詳細を記載する。

(1) ホームページを利用した普及活動

ホームページの利用状況

平成 27 年度の閲覧数の平均は約 39,049pv/月（最小 26,377～最大 68,017pv）であり、前年度の平均値 40,398pv から減少となった。管理会社からは集計を行うためのツール（Google アナリティクス）において集計手法の変更（より正確な集計）があったことが要因であり、旧来方式では微増と考えてよいとの報告を受けている。

各ページの閲覧状況では、トップページ、協議会紹介ページ、UDF 自主規格紹介ページの閲覧が多いが、UDF 商品紹介ページにおいて最も多頻度の閲覧がある。

① 各ターゲット層への有効な情報発信（継続）

ホームページの更新は、昨年度末の食品メーカー（メディア等含む）向け（総合案内）ページの全面改訂に引き続き、今年度は一般消費者向けページを新たに加えた。同ページにはイラストを多用するなど、ユニバーサルデザインフードの説明が親しみやすくわかりやすい構成となるよう心がけた。さらに施設従事者向けページの一部アップロードを完了した。今年度は、計画したページ作成をわずかに残したものの、更新により、協議会ホームページ窓口は総合・一般消費者・プロユーザーの各層を網羅するものとなり、各方面への啓発の基盤が固まった。したがって、以降はこれらを生かしたプロモーション施策を実施していく段階となる。

② キャンペーン等の実施

UDF の啓発とホームページ閲覧数の増加に寄与する事業として、プレゼントキャンペーンがあるが、今年度についても 5～6 月（初夏の爽やかキャンペーン）、10～11 月（介護の日キャンペーン）の 2 回を実施した（以下、(4) で詳細を報告）。

(2) ツールを利用した普及活動の積極的实施

① 介護従事者が活用できる食べる機能の判断用ツールの作成

在宅方面へのユニバーサルデザインフードの啓発・浸透は、協議会設立以来の課題となっている。今年度は、在宅被介護者への接触機会が多い職種として、訪問歯科医師、訪問歯科衛生士、訪問栄養士等を取り上げ、これら職種へのユニバーサルデザインフードに対する理解を一層深められるよう、在宅方面への啓発・浸透を目指した活動の実施を掲げた。

これにあたり、現在、普及委員会に市販用ワーキンググループ（多職種連携 WG より改称）を設置し、これら職種や在宅においてユニバーサルデザインフード使用者を増加させるべく、活用資するツール（リーフレット様式など）の作成に取り組んだ（継続）。

② 協議会パンフレットの更新

「日本介護食品協議会パンフレット」の改訂版を作成した。装丁は A4 判片観音 6 ページとし、協議会設立の経緯、ユニバーサルデザインフード、ロゴマークおよび区分表、とろみ調整食品などの解説の他、「区分選択の目安フローチャート」、「ユニバーサルデザインフード Q&A」（2 ページ）を収載している。今年度は、ユニバーサルデザインフード製品集合写真

と会員名簿の更新を行った。

同パンフレットは3万部を作成し、協議会が出展する催事の他、会員企業が個別に参加する催事、展示会、勉強会などでも積極的に配布した。その他、病院、施設、地域サークル等の勉強会や催事、大学の講義等での使用など、求めがあった際には随時提供・配布した。

③ 業務用ユニバーサルデザインフード啓発資料の作成・活用

専門職種が参加する学会・展示会でのユニバーサルデザインフードの啓発を目的に、業務用ワーキンググループによる業務用ユニバーサルデザインフードを活用したメニュー提案の実施を検討した。

具体的な活動例としては、1月開催のメディケアフーズ展において、「UDFを活用した行事食（ひな祭り）」をテーマにメニューを作成し、展示・試食をもって出展した。

④ 「食べる力のサポートブック」の活用

本年度については、同冊子を2万部増刷し、勉強会、催事、キャンペーン等を通じて消費者等へ配布した。本冊子の活用については、施設や病院、大学等からも多くの照会がある。

⑤ 「缶詰時報」の活用

組織強化事業施策の一環として、引き続き日本缶詰びん詰レトルト食品協会発行の「缶詰時報」に「日本介護食品コーナー」を掲載した。主に、同協会会員企業に対して協議会やUDFの認知を図ることを目的としている。掲載内容は、引き続き協議会会員企業の紹介を順番に掲載している。なお、協議会HPでもPDF化した同記事を専用コーナーで閲覧できる。

- 6月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (32) ～昭和冷凍食品㈱～
- 7月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (33) ～宮坂醸造㈱～
- 8月号 ユニバーサルデザインフード生産統計報告
- 9月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (34) ～名阪食品㈱～
- 10月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (35) ～㈱ふくなお～
- 11月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (36) ～㈱ブルックス～
- 12月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (37) ～㈱ベネッセパレット～
- 1月号 新年のご挨拶
- 2月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (38) ～海商㈱～
- 3月号 日本介護食品協議会会員企業のご紹介 (39) ～テルモ㈱～
- 4月号 メディケアフーズ展 2016 出展レポート
- 5月号 メディケアフーズ展 2016 出展レポート 2 セミナーとアンケート結果

⑥ プレスリリースの配信

関係各省庁・加工食品業界および報道関係各社に対して、協議会活動とUDFの一層の周知および会員企業増加に資することを目的とし、随時プレスリリースを配信した。

6月の年度開始時にタイミングを合わせ、UDF統計情報の詳細を報道関係各位へリリースした。UDF統計については協議会ホームページへも掲載した。

また、7月の総会開催にあわせて、昨年度末に実施した「UDF・とろみ調整食品利用実態調査」の結果概要についてもリリースした。

なお、上記⑤「缶詰時報の活用」についても、協議会から発信する情報として、プレスリリース同様の要件を担うものと位置付けている。

(3) 学会・展示会への積極的参加

介護関係の展示会、学会等は全国で多く開催されているが普及委員会で検討の結果、本年度は、以下に出展した。

① 第 21 回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

摂食・嚥下のリハビリテーションに関わる医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、作業療法士、歯科衛生士、栄養士など多職種の方々の集まりで平成 8 年に発足した学会であり、本年度は下記の日程で開催された。

期 日 平成 27 年 9 月 11 日（土）・12 日（日）

会 場 国立京都国際会館（京都市）

来場者数 約 6,300 名

協議会ほか協議会員企業 20 社（カセイ食品(株)、キッセイ薬品工業(株)、キューピー(株)、(株)クリニコ、大和製罐(株)、(株)タカキヘルスケアフーズ、日清オイリオグループ(株)、日東ベスト(株)、日本ケアミール(株)、ハウス食品(株)、(株)フードケア、(株)ふくなお、ヘルシーフード(株)、ホリカフーズ(株)、(株)マルハチ村松、マルハニチロ(株)、三島食品(株)、(株)明治、(株)ヤヨイサンフーズ、和光堂(株)と多数が参加した。

また、今回は「ユニバーサルデザインフード（UDF）における官能評価と物性値の関連性の検証」のタイトルで日本女子大学との共同研究の一時結果報告について、一般口演に応募し、同タイトルにて研究成果の発表を行った。演者は日本女子大学家政学部調理科学研究室助教の岩崎裕子氏にお願いした。

② 第 42 回国際福祉機器展

我が国最大規模の介護関連専門の展示会で、一般のほか福祉団体や介護施設などから多数の関係者が来場する。

期 日 平成 27 年 10 月 7 日（水）～9 日（金）

場 所 東京国際展示場（江東区）

出展社数 522（うち国内 461 社、海外 61 社）

来場者数 119,075 名（延べ。主催者発表）

東 2 ホール・介護食品等調理器具のコーナーに出展した。出展内容は UDF 製品サンプル展示・配布、パンフレット配布など（ブース運営補助には(株)大冷、(株)ヤヨイサンフーズが対応した）。

協議会パンフレット、食べる力のサポートブックについては、開催 3 日間でおおよそ各 3,000 部を配布した。

会員企業からはキューピー(株)、ホリカフーズ(株)、マルハニチロ(株)、名阪食品(株)が出展した。

③ メディケアフーズ展 2016

医療・介護分野の“食”に特化した展示会。「食事も医療の一環」という考え方から医療・介護の現場においても“食”へのニーズが高まっており、多様化する高齢者食・介護食市場のニーズに応える商品やサービスを多数展示・提案する目的。

期日 平成 28 年 1 月 26 日（水）・27 日（木）

会場 東京国際展示場（江東区）

来場者数 14,081 名（前回 13,554 名・主催者発表）

企業展示に 2 小間出展。(株)フードケアと共同出展した。協議会スペースでは、業務

用ワーキンググループ（㈱大冷、㈱タカキヘルスケアフーズ、テーブルマーク㈱、日本水産㈱、日東ベスト㈱、ハウス食品㈱、㈱ふくなお、㈱マルハチ村松、マルハニチロ㈱、㈱ヤヨイサンフーズ）により、昨年に引き続き新たに考案した「施設でのユニバーサルデザインフードの活用方法について（UDFを使った行事食）」の内容で展示、試食を行った。また、武蔵野赤十字病院医療技術部栄養課課長代理原純也先生に講演をお願いし、試食付きセミナーを実施した。およそ 100 名が聴講し盛況であった。

出展には協議会の他、キッコーマン食品㈱、キッセイ薬品工業㈱、㈱クリニコ、昭和冷凍食品㈱、㈱大冷、大和製罐㈱、テーブルマーク㈱、テルモ㈱、堂本食品㈱、㈱ニチレイフーズ、日清オイリオグループ㈱、日東ベスト㈱、日本水産㈱、日本ケアミール㈱、㈱ふくなお、マルコメ㈱、㈱マルハチ村松、マルハニチロ㈱、三島食品㈱、森永乳業㈱、㈱ヤヨイサンフーズが参加した。

④ 第 31 回日本静脈経腸栄養学会（JSPEN 2016）

同学会は、臨床栄養学の領域の学会としては世界最大規模となる（会員約 18,000 名）。近年では、経口食についてのテーマが多く取り上げられており、ユニバーサルデザインフードの啓発に有効と判断し企業展示に出展することとした。

期日 平成 28 年 2 月 25 日（木）・26 日（金）

会場 福岡国際会議場、マリンメッセ福岡等（福岡市）

来場者数 約 10,000 名

業務用ワーキンググループ（㈱タカキヘルスケアフーズ、日東ベスト㈱、ハウス食品㈱、㈱フードケア、㈱ふくなお、マルハニチロ㈱、㈱ヤヨイサンフーズ）が中心となり、「ユニバーサルデザインフードを活用した行事食について」パンフレット配布、同内容の展示・試食を実施した。

⑤ 第 2 回 CareTEX2016

「商談型展示会」をコンセプトとした催事。介護用品展、介護施設産業展、介護施設ソリューション展をその内容としている。協議会が同催事後援名義使用について承認を行ったことから、バーターとして 1 コマ分の提供を受けて出展した。

期日 平成 28 年 3 月 16 日（水）～18 日（金）

会場 東京ビッグサイト（江東区）

来場者数 15,272 名

出展について会員企業より希望を募ったところ、㈱大冷、テーブルマーク㈱、日東ベスト㈱、㈱フードケアの 4 社による意思表示があり、共同運営態勢で展開した（1 日 2 社出展）。当日は、各社ユニバーサルデザインフード製品について展示・試食、パンフレット配布等を実施した。

来場者属性は、在宅介護事業者、介護施設、流通関係者が半数以上をしめた。

（4）プレゼントキャンペーンの実施

一般消費者のユニバーサルデザインフード認知機会の増大を図ることを目的に、今年度も引き続き協議会ホームページを利用したプレゼントキャンペーンを 2 回実施した。

- ・初夏の爽やかキャンペーン（5 月 15 日～6 月 15 日）、
- ・介護の日キャンペーン（10 月 15 日～11 月 16 日）

趣旨は例年同様に介護食品利用者の家族を対象に、「応募者から利用者に向けてプレゼント

する」ものとした。ホームページ上でユニバーサルデザインフードに関する簡単なアンケートに回答・応募してもらい、この中から 130 名を抽選し UDF 商品 3,000 円分をプレゼントした（プレゼントの内訳は、常温品 UDF セット 100 名分、冷凍品 UDF セット 30 名分。プレゼント用商品は協議会員が協賛）。応募者数は各 3,485 名（前回 3,834 名）、3,777 名（前回 3,072 名）と盛況であった。

以降、当選者からは、送られた各ユニバーサルデザインフード使用の感想として、おいしさ、食べやすさへの評価や、今後の介護食品の広がりを期待する声などが随時寄せられている。

(5) マスコミ

上半期に事務局や会員企業に取材依頼等があった主な掲載媒体は次のとおり。

- ・新聞（全国紙、地方紙、専門誌等）
- ・雑誌および書籍（完全図解介護のしくみ、高齢者ホーム（週刊朝日 MOOK）、おうちで食べる！飲み込みが困難な人のための食事づくり Q&A、完全図解在宅介護、月刊介護保険、スキルアップ家庭科 2016、ナーシンググラフィカ、NEW マーク・記号大百科、デンタルハイジーン、咀嚼をそしゃくする、高校家庭科資料集ほか）。

(6) その他催事、勉強会などへの協力

学生や介護関連職種、地域住民に対しての勉強会の場を通じて協議会・UDF 情報を発信した。協議会に対して依頼のあったユニバーサルデザインフード講演やサンプル提供希望は次のとおり。

【依頼講演・勉強会】

- ・第 66 回外食産業フェア（大阪市）特別セミナー
27. 9. 9（水）. 対応・森会長
- ・会津若松市ユニバーサルデザイン講習会（会津若松市）
27. 11. 13（金）. 対応・事務局
- ・千葉県社会福祉協議会社会福祉研修センター（千葉市） 社会福祉セミナー
27. 11. 27（金）. 対応・キューピー(株)、(株)クリニコ、マルハニチロ(株)、(株)明治、事務局
- ・全国ホームヘルパー協議会セミナー・企業展示（千代田区）
27. 12. 17（木）. 対応・味の素(株)、日東ベスト(株)、マルハニチロ(株)
- ・愛国短期大学（江戸川区） 介護食セミナー
28. 1. 8（金）. 対応・キューピー(株)、事務局
- ・介護者の会「虹の会」介護食品勉強会（四街道市）
28. 1. 26（火）. 対応・(株)明治
- ・ふじのくにユニバーサルデザイン実践講座（静岡市）
28. 2. 5（金）. 対応・事務局
- ・バリアフリー2016（大阪市）
28. 4. 22（金）. 対応・事務局

【サンプル提供依頼】

- ・地域食支援グループ ハッピーリーブス
管理栄養士・栄養士対象講座へ提供（文京区、6 月）

- ・東洋大学ライフデザイン学部
介護福祉士を目指す学生の介護技術の授業へ提供（朝霞市、7月）
- ・介護労働安定センター京都支部
介護実務者研修へ提供（京都市、8月）
- ・君津市介護支援専門員協議会
同協議会主催の健康と福祉のふれあい祭りへ提供（君津市、10月）
- ・群馬医療福祉大学 短期大学部
学園祭来場者を対象にした介護食品試食会へ提供（前橋市、11月）
- ・富津市障害者総合支援協議会
富津ユニバーサルフェスタ 2015 へ提供（富津市、11月）
- ・地域食支援グループ ハッピーリーブス（予定）
管理栄養士・栄養士対象講座へ提供（文京区、1月）
- ・保健同人社 衛生委員会 第8回ランチ会
社内研修会へ提供（千代田区、2月）
- ・NPO 法人君津市手をつなぐ育成会
第2回あしたば介護食試食会にて同会会員、一般対象へ提供（君津市 2月）
- ・東洋大学イフデザイン学部生活支援学科
生活支援技術（介護技術）授業へ提供（朝霞市 5月）

なお、サンプルとともに、各社商品パンフレット、協議会パンフレットを発送し、同時に配布を依頼した。

【催事への協賛】

協議会へ以下の催事より協賛（後援）名義使用の要請があり了承した。

- ・第17回ジャパン・インターナショナル・シーフードショー. 27. 8. 19（水）
～21（金）東京ビッグサイト（江東区）
- ・フードシステムソリューション 2015. 27. 9. 30（水）～10. 2（金）東京ビッグサイト（江東区）
- ・第13回シーフードショー大阪. 28. 2. 18（木）～19（金）ATCホール（大阪市）
- ・第10回JAグループ国産農畜産物商談会. 28. 3. 9（水）～10（木）東京ドームシティプリズムホール（文京区）
- ・第2回CareTEX2016. 3. 16（水）～18（金）東京ビッグサイト（江東区）
- ・ifia JAPAN 2016. 5. 18（水）～20（金）東京ビッグサイト（江東区）

2) 技術関連事業

事業計画の基本方針に基づき、ユニバーサルデザインフードの普及を支える規格や科学的データの充実を図り、分かりやすく、利用しやすいユニバーサルデザインフードにするための活動を行った。また、共同研究ワーキンググループにより、産学におけるユニバーサルデザインフードの研究を実施し、その成果を学会で発表し、本業界でのユニバーサルデザインフードの価値を益々高めるよう努めた。さらに、技術委員会では、これまで定期的に UDF 製品の官能評価を行ってきたが、今年度についても UDF 試食会 WG を設置しこれを実施した。

(1) ユニバーサルデザインフード自主規格補完のための研究活動

ユニバーサルデザインフード自主規格の懸案事項の解決に向け、本年度は以下の 3 テーマについて審議・検討を行った。

① 自主規格遵守のための製品評価の考え方について

自主規格に掲載しているユニバーサルデザインフード試験方法においては物性測定方法の条件を定めているが、個々の具体的な測定について言及しているものではないため、「サイズが小さいもの」、「不均質なもの」、「滑りやすいもの」、「くずれやすいもの」、「温度により状態が変化するもの」等において各社での日々の測定業務上で手順に迷うことがあるとの意見を多く受けてきた。そこで、これらを「測定に苦慮する事例」とし、各社での測定方法を共有しながら一定の解釈を得られるよう審議検討を重ねてきた。

本テーマは一昨年度からの課題として継続検討を行ってきたものであるが、今年度は「ユニバーサルデザインフード測定方法事例集」として完成をみたため、会員に共有・配信を行った。本事例集の作成については、日本女子大学との共同研究事業に組み込んで実施したが、大越ひろ教授の監修を得るなど多大な協力を受けた。

② 物性の変化する食品の測定方法と区分の考え方について

アイスクリーム、チョコレート、キャラメルなどの温度とともに物性が変わる食品や、煎餅・おかきのように破断に強い力を要するものなどは、現状 UDF 規格を満たせない為、UDF マークを付けた製品は存在しない。これまで、これらの製品について UDF 商品としたい企業が加入・問い合わせを行ってきた例もあることから、これらの製品を UDF として規格化できる手法について審議を継続している。

本件について手法が整備されれば、今後 UDF 商品の守備範囲が広がり、利用者の食をさらに豊かにすること、並びに、広い分野での会員企業の加入を見込むことができる。

③ UDF の自主規格遵守と客観的説明に資する製品申請方法について

近年、製品登録数の増加、新規参入による会員企業の増加が顕著となっていることから、技術委員会では一昨年度より UDF 製品の信頼性確保について一層の客観的妥当性を付与していくための新しい申請方法を検討してきた。

検討の結果、新しい申請方法では各社内での申請製品に対する責任の明確化、測定手順の確立と社内担当者間での正確な情報伝達（共有）、品質管理方法の明示等を必須要件とした。

同申請方法の開始時期については現在検討中であるが、新規申請書の確認、新規申請システムの動作検証等必要な準備が済み次第、速やかに会員各位に伝達の上、運用を開始する。

(2) 共同研究事業

今年度は以下テーマについて、日本女子大学との共同研究事業を実施した。

① 「嚥下調整食分類 2013」とユニバーサルデザインフードとの対応（学会発表）

日本摂食嚥下リハビリテーション学会がまとめた「嚥下調整食分類 2013」では、ユニバーサルデザインフードをはじめ、えん下困難者用食品、嚥下食ピラミッド等の各基準について横断的に参照することができる。一方、これら各基準は対象や目的が異なることから一様の考え方で比較することは難しいが、指標として物性値を採用しているところで共通している。

今年度は、この点に着目し、物性値と食感をテーマに、ユニバーサルデザインフードの物性測定及び官能評価を実施し、関連性を検証することとした。

これにあたり、引き続き日本女子大学との共同研究において、物性面、官能面から試験・検証を実施し、適切なエビデンスの収集を行った。同研究成果の一部については、ユニバーサルデザインフードの信頼性を高めるよう、今年度の第 21 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会での発表を行った（本年度の発表要旨については本報告書 27 ページに添付）。

② 物性測定方法の検証

①の他にも関連する研究として、物性測定の方法に関する検証も同時に実施した（本報告書 2）－（1）－①）。これは、現在のユニバーサルデザインフード試験方法からは測定手順を図りにくい「サイズが小さいもの」、「不均質なもの」、「滑りやすいもの」、くずれやすいもの、「温度により状態が変化するもの」等について、所・人によらず一定の解釈を以て測定を実施できるようなマニュアルとしてまとめて行くことを見込んで取り組んだもの。本件については、共同研究ワーキンググループが主体となり実施し、「ユニバーサルデザインフード測定方法事例集」としてまとめた。

なお、本件については、後日事務局より PDF にて会員各位に配信し、また、今後の「自主規格解説書」改訂の際に盛り込む予定。したがって、本件の取り扱いについては、会員限定として外部への公表は行わないため、会員各位はこの旨周知されたい。

(3) ユニバーサルデザインフード官能検査会の実施

ユニバーサルデザインフード各製品の規格保持を主眼とし、同時に製品開発や各社担当者のスキルアップ等に見込み、官能検査会（試食会）を実施した。

今年度は、新規に立ち上げた UDF 試食会ワーキンググループを中心に企画・立案を行い「物性（官能における物性）における美味しさの評価への影響」をテーマに、日本女子大学大越研究室の全面的協力により実施した。

データについては上記目的の他、共同研究事業ともリンクさせ、得られた結果を自主規格の向上や学会発表のための資料として活用することを見込んでいる。

(4) 研究成果の外部への PR 活動

技術委員会で検討した研究テーマについて、その成果を学会および学術誌等を通じて発表し、協議会の技術的活動面について関連組織、研究者、企業等へアピールすることを目的とした。

今年度については、第 21 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会において、日本女子大との共同研究（本報告書 2）－（2）－①の経過として、以下のテーマで発表を

行った。

演題：ユニバーサルデザインフード（UDF）における官能評価と物性値の関連性の検証

演者：岩崎裕子氏（日本女子大学 家政学部 調理科学研究室 助教（当時））

（5）容器包装に関する規格化の検討

容器包装研究会が中心となり、ユニバーサルデザインフードの容器包装に関して、自主規格に掲載している設計配慮事項をより具体化する方向で検討を行っている。今年度は以下の事業を実施した。

①ユニバーサルデザインの要件を満たした容器解説集の作成

ユニバーサルデザインフードに適した容器について、容器包装メーカーの立場から、容器としてのユニバーサルデザイン性に配慮した各社製品の事例を、その特徴や開発秘話等交えて、ユニバーサルデザインフードへの活用提案などを盛り込んだ資料として作成。以降電子ファイル等にて会員企業に情報提供する。

②ユニバーサルデザインフード容器に関する用語集の作成

①の作成に関連し、ユニバーサルデザインフードをはじめ加工食品に利用される容器包装に関する専門用語を解説した用語集の作成を開始した。容器メーカーでは日常的に使用される用語であっても、食品メーカーではなじみの浅い用語も多くある。そこで、専門性が高くかつ使用頻度が多いと思われる用語を100以上選択し、解説を加えた辞典様の資料を作成する。食品メーカーの会員に提供し、社員研修等での活用も見込む。

（6）講演会の開催

今年度は第14回定期総会を機に、会員企業を対象に下記の通り介護食品に関する講演会を開催した。

期 日 平成27年7月17日（金） 15:30～17:00 （第14回定期総会併催）
場 所 ホテルメトロポリタンエドモント 2F 波光
講 師 中村 育子 氏
演 題 「これからの在宅高齢者と訪問栄養食事指導」

【講師略歴】

現職：医療法人社団福寿会福岡クリニック在宅部栄養課課長

主な職歴：1994年 女子栄養大学栄養学部卒業

2008年 女子栄養大学医療栄養学研究室研究生

2009年 女子栄養大学大学院栄養学研究科 栄養学専攻 修士課程入学

2012年 女子栄養大学大学院栄養学研究科 栄養学専攻 修士課程卒業

2012年 静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府博士後期課程食品栄養科学専攻入学

2015年 静岡県立大学大学院薬食生命科学総合学府博士後期課程食品栄養科学専攻満期退学

1994年 板橋区立西台在宅サービスセンター

1997年 医療法人社団福寿会福岡クリニック在宅部 在宅部栄養課課長に就任

2008年 全国在宅訪問栄養食事指導研究会会長に就任

2012年 全国在宅訪問栄養食事指導研究会副会長に就任

2014年 日本在宅栄養管理学会（旧訪栄研）副理事長に就任

3) 組織強化事業

本事業は、日本介護食品協議会の存在ならびに、「ユニバーサルデザインフード」について、多くの食品企業に向けて積極的に情報伝達することにより、さらに新規会員企業を獲得し一層の組織強化を図ることを基本的な目的としている。

同事業計画の主体は組織強化ワーキンググループであり、新規会員企業獲得についての手法考案、協議会ならびに UDF の認知向上のための事業選定等を審議テーマに、中長期的視点からの具体的事業を設定・実施するもの。

今年度については、理事会の要請を受け、主に正副会長、理事、普及・技術正副委員長を中心に以下の対応を行った。

①農林水産省発信の「新しい介護食品（スマイルケア食）」への対応協議

協議会では、本事項について（公財）日本健康・栄養協会（特別用途食品活用研究会＝日本流動食協会、日本メディカルニュートリション協議会）と関係団体連絡会を発足し、情報共有を行いながら同省と意見交換の機会を設け、介護食品業界としてその運用方法や付帯事項について同省に対して提案を行った。

②協議会加入条件の見直し

協議会は設立以来、（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会へ事務委託を行っている。このため、会則上、協議会への加入には同協会への同時加入が義務となっている。

一方、現在のユニバーサルデザインフードは、草創期当初のような常温食品にとどまらず、冷凍、チルドなど多様化を以て広がっており、昨今加入を希望する企業に対して同協会への加入義務はユニバーサルデザインフード活用の妨げとみられている。本件については、これまでも理事会においてしばしば議題となるなど、解決手法について審議が繰り返されてきた。

そこで、本年度はこれまでの経緯も踏まえ、組織強化ワーキンググループにて手法を立案し、理事会において審議を行ってきた。また、同協会とも協議を重ね、協議会と同協会とのかわり方、ならびに会員の資格等を次年度以降あらためることとした。

- ・ 協議会は同協会の団体会員として加入する。
- ・ 引き続き事務業務を同協会へ委託するため、事務委託費の見直しを行う。
- ・ 会則から協議会加入条件である同協会加入義務を削除し、会員の資格を変更する。

これら事項について、平成 28 年 4 月 29 日に開催された臨時総会席上にて全会員の承認を得たため、これを受けて平成 28 年度第 15 回定期総会にて会則の変更を提案することとした。

4) UDF マーク表示変更事業

設立以来、利用者の選択に資する製品の供給を理念に掲げ、自主規格の策定・運用により製品等への表示を行ってきた。本協議会では、今後についても同理念に基づき活動を継続していく。

一方、昨今の介護食品産業を取り巻く環境をみると、新たな規格基準の提案がなされるなど今後の当該市場において変化が予測される。このような時勢を受け、協議会では UDF マーク表示方法の見直しを行うこととした。

本件については、理事会からの指示を受け、普及委員会の市販用、業務用、流通企業の各委員で構成した区分問題タスクフォースを招集し対応した。ここでは、今後新たな基準による表示製品が市場に投入された際に、流通、小売、在宅の各面でどのような混乱が起こる

かを予測し、これを未然に防ぐために協議会および会員企業のとるべき対応について審議・検討を行った。

今後、ユニバーサルデザインフード表示に対する利用者調査を行うなど、利用者に理解しやすい表示方法について継続して検討を行う。

また、これによりユニバーサルデザインフード自主規格をはじめ、パンフレット等資料、ホームページ掲載内容等の改訂が見込まれるが、普及啓発事業、技術関連事業等を含め実施していく。

5) 調査事業

(1) 生産統計調査の実施

ユニバーサルデザインフードの統計調査を本年度も引き続き実施した（結果は18頁）。調査は下記の項目について行った。

- ① 調査対象 協議会員が製造・販売する製品
- ② 調査期間 平成27年暦年年計
- ③ 調査項目 生産（出荷）金額(単位：百万円)及び生産数量（単位：kg）
- ④ 調査区分
 - ・区分別（区分1～4、とろみ調整）
 - ・形態別（乾燥、冷凍、常温）
 - ・販売方法別（業務用または市販用）
- ⑤ 調査対象者 会員企業であって製造もしくは販売者

*本調査結果については6月17日付でプレスリリース済み。

(2) 認知度調査の実施

一般消費者のユニバーサルデザインフード認知状況を把握するため、平成25年度に引き続きインターネットを利用した定点調査を行った（隔年調査）。

調査は下記の項目について行った。

- ① 調査方法 インターネットアンケート
- ② 調査対象 インターネット調査会社（ネオマーケティング社）に登録している一般のモニター会員1,000人（20歳代～60歳代以上・男女各100名）
- ③ 調査期間 平成28年5月13日

【問 あなたは介護食品が市販されているのをご存知ですか】

「知っている」と回答があった割合

<全体>47.0%（前回43.0%）

<食事介護者の有無による集計>

・食事介護が必要な方がいる世帯 61.1%（前回64.4%）

・食事介護が必要な方がいない世帯 44.3%（同39.7%）

<年代別集計>

・20代40.0%（前回35.5%）、30代38.0%（同33.5%）、40代44.0%（同40.0%）、
50代52.5%（同49.0%）、60代60.5%（同57.0%）

【問 あなたはユニバーサルデザインフードをご存知ですか】

「知っている」と回答があった割合

<全体>12.4%（前回9.7%）

<食事介護者の有無による集計>

- ・食事介護が必要な方がいる世帯 24.7% (前回 25.2%)
- ・食事介護が必要な方がいない世帯 10.0% (同 7.3%)

<年代別集計>

- ・20代 17.5% (前回 11.0%)、30代 12.5% (同 5.5%)、40代 13.0% (同 6.5%)、50代 8.5% (同 11.5%)、60代以上 10.5% (同 14.0%)

6) その他事業

(1) ユニバーサルデザインフードの登録

平成 28 年 5 月末日現在の製品登録件数は 1,784 品目 (前年同期 1,524 品目) で、内訳は以下の通りである。なお、登録に際しては自社における物性測定値の報告及び製品版下等の提出を義務付けており、事務局にて審査後、基準に合致している製品について受理番号を通知している。

	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	とろみ調整	合計
乾燥食品	0	2	14	0	84	100
冷凍食品	258	212	624	23	0	1,117
常温食品	116	148	194	108	1	567
合計	374	362	832	131	85	1,784

(2) 農林水産省が実施する介護食品に関する事業への対応と協力業務

① 農林水産省が提案する「新しい介護食品」の検討・普及推進への対応

農林水産省では、一昨年度より今後の「介護食品」の国民への周知啓発を視野に、「介護食品のあり方に関する検討会議」を発足させ、産官学から選出された委員により「介護食品の定義の明確化」、「ネーミングを含む介護食品の普及」、「食品事業者の行動規範の策定」、「介護食品の利用に向けた社会システムの構築」等について具体的な審議を開始し、いくつかの結論を導き出している。

これを受け、同省では平成 27 年 4 月より新規に「新しい介護食品 (スマイルケア食) 普及推進会議」を設置した。同会議へは、本協議会からは森会長が委員選任を受けており、これまでに①定量的基準の策定、②「新しい介護食品 (スマイルケア食) の選び方」を示した各分類を表すマークの使用方法的ルール化、③社会システムの構築に係るさらなる検討といった課題について検討を行ってきた。

また、具体的な規格や運用については「スマイルケア食の選び方ワーキンググループ」により審議されてきた。同ワーキンググループは「低栄養予防のための食品」及び「噛むこと・飲み込むことが困難な人向け食品」の 2 つのテーマ別に設置され、協議会からは各々不二普及委員長 (榊明治)、佐藤技術副委員長 (榊フードケア) が着任し、協議会の立場において会議に出席し意見を伝えてきた。

同普及推進会議はこれまで下記の通り開催された。

【全体会議】

第1回全体会議（平成27年4月27日） 【持ち回りによる開催】

第2回全体会議（平成27年9月8日）

第3回全体会議（平成27年12月25日）

スマイルケア食の選び方検討ワーキンググループ

- ・ 噛むこと・飲み込むことが困難な人向け食品
- ・ 低栄養予防のための食品（合同開催）

【ワーキンググループ】

◆スマイルケア食の選び方 検討ワーキンググループ（噛むこと・飲み込むことが困難な人向け食品）

第1回会議（平成27年5月12日）

第2回会議（平成27年7月2日）

第3回会議（平成27年7月31日）

◆スマイルケア食の選び方 検討ワーキンググループ（低栄養予防のための食品）

第1回会議（平成27年6月8日）

第2回会議（平成27年8月31日）

② 農林物資規格調査会部会への出席

①の審議を受け、同省により介護食品のJAS化について具体的な素案が提示される段階となったことから、同調査会部会が発足。消費者代表、消費者団体、学術機関等からなる農林物資規格調査会委員および、①のスマイルケア食普及推進会議より選任をうけた農林物資規格調査会専門委員で構成した。

本協議会からは後者の委員として森会長が選任を受け、介護用加工食品を推進する産業界の立場で出席した。

本部会は下記のとおり開催された。

第1回部会（平成28年2月29日）

第2回部会（平成28年4月6日）

この結果、そしゃく配慮食品の日本農林規格（案）が承認を受けたことから、同省では平成28年5月19日～6月17日の間「そしゃく配慮食品の日本農林規格の制定案についての意見・情報の募集について」としてパブリックコメントの募集を行った。

③ 農林水産省が主催する催事への協力

農林水産省は今年度においても、以下の2つの催事を主催。協議会はこれら催事について、会員企業に協力を呼びかけた。

●消費者の部屋特別展示「知っていますか？スゴク美味しい「介護食品」！！」

介護の日の週にあたる11月2日（月）～6日（金）、農林水産省消費者の部屋において実施された同特別展示について協力を行った。

協力内容は、ユニバーサルデザインフードの展示・試食対応で、特に4日（水）・5日（木）の2日間についてマルハニチロ(株)、大和製罐(株)、(株)明治、キューピー(株)が試食対応を行った。

●新しい介護食品に関するシンポジウム「どう活用する“スマイルケア食”」

農林水産省と NHK プロモーション共催の同催事に出展・協力した。

開催日：平成 27 年 12 月 1 日（火）

会場：科学技術館（千代田区）

対象者：一般消費者（定員 350 名）

同催事は、「新しい介護食品」の愛称や選び方の普及のための取り組みとして、「スマイルケア食」の現状と課題、未来と可能性をテーマに開催された（11 月 13 日（金）～12 月 9 日（水）の期間中、東京のほか、秋田、和歌山、福岡、富山の計 5 会場で開催された）。内容は、パネルディスカッション、講習会、研修会で構成された。

東京会場の当日はホールロビーにて、協議会会員企業（マルハニチロ(株)、日清オイリオグループ(株)、(株)明治、和光堂(株)、大和製罐(株)、ハウス食品(株)、キューピー(株)）が各展示ブースにてユニバーサルデザインフードの試食・サンプリングを実施した。



ユニバーサルデザインフード生産統計

日本介護食品協議会

		平成24(2012)年		平成25(2013)年		平成26(2014)年		平成27(2015)年	
		数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)
区分	1	1,251	1,111	2,106	1,854	2,856	2,393	3,943	3,285
	2	995	789	1,180	1,049	1,247	1,167	1,683	1,940
	3	3,887	4,170	5,014	5,205	5,279	5,401	5,610	5,931
	4	1,693	1,423	1,843	1,565	1,047	1,078	1,942	1,765
とろみ		1,411	3,333	1,543	3,809	2,688	6,681	2,840	7,186
合計		9,237	10,825	11,686	13,481	13,117	16,719	16,018	20,107
タイプ別	乾燥	1,445	3,437	1,601	3,924	2,617	6,573	2,873	7,283
	冷凍	3,541	3,629	4,522	4,654	5,725	5,662	7,204	7,482
	常温	4,252	3,759	5,564	4,903	4,775	4,484	5,941	5,328
合計		9,237	10,825	11,686	13,481	13,117	16,719	16,018	20,107
販売先別	市販	2,271	2,480	2,641	3,242	3,220	5,800	4,068	6,795
	業務	6,966	8,345	9,046	10,239	9,898	10,920	11,951	13,313
合計		9,237	10,825	11,686	13,481	13,117	16,719	16,018	20,107

※暦年集計

※金額は出荷ベース

ユニバーサルデザインフード平成27(2015)年生産量・金額前年対比

		平成27(2015)年		平成26(2014)年		15/14年対比		15/13年対比	
		数量(トン)	金額(百万円)	数量(トン)	金額(百万円)	数量(%)	金額(%)	数量(%)	金額(%)
区分	1	3,943	3,285	2,856	2,393	138.1	137.3	187.2	177.2
	2	1,683	1,940	1,247	1,167	134.9	166.2	142.6	185.0
	3	5,610	5,931	5,279	5,401	106.3	109.8	111.9	114.0
	4	1,942	1,765	1,047	1,078	185.4	163.8	105.4	112.7
とろみ		2,840	7,186	2,688	6,681	105.7	107.6	184.0	188.7
合計		16,018	20,107	13,117	16,719	122.1	120.3	137.1	149.2
タイプ別	乾燥	2,873	7,283	2,617	6,573	109.8	110.8	179.4	185.6
	冷凍	7,204	7,482	5,725	5,662	125.8	132.1	159.3	160.8
	常温	5,941	5,328	4,775	4,484	124.4	118.8	106.8	108.7
合計		16,018	20,107	13,117	16,719	122.1	120.3	137.1	149.2
販売先別	市販	4,068	6,795	3,220	5,800	126.3	117.2	154.0	209.6
	業務	11,951	13,313	9,898	10,920	120.7	121.9	132.1	130.0
合計		16,018	20,107	13,117	16,719	122.1	120.3	137.1	149.2

※平成26(2014)年数値に修正がありましたため本統計に反映しています(常温・区分1~4、とろみ)。

※本統計は日本介護食品協議会会員企業の「ユニバーサルデザインフード」生産統計です。介護食品全体の市場規模を表すものではありません。

第 21 回 日本摂食嚥下リハビリテーション学会 (2015. 9. 11~12 京都市)



第 42 回国際福祉機器展 (2015. 10. 7~9 東京ビッグサイト)



UDF 試食会 (2015. 11. 6 日本女子大学)



メディケアフーズ展 2016 (2016. 1. 26~27 東京ビッグサイト)



平成 27 年度収支計算書

平成 27 年 6 月 1 日から 平成 28 年 5 月 31 日まで

日本介護食品協議会

< 収入の部 >

単位：円

科 目	予 算	決 算	対比増減	備 考
I. 入会金収入				
入会金	250,000	250,000	0	
II. 会費収入				
会費	15,400,000	14,500,000	減 900,000	
III. 雑収入				
催事出展企業負担金	200,000	100,000	減 100,000	
雑収入	80,000	259,015	増 179,015	
小 計	280,000	359,015	増 79,015	
IV. 前期繰越金	1,309,303	1,309,303	0	
合 計	17,239,303	16,418,318	減 820,985	

< 支出の部 >

科 目	予 算	決 算	対比増減	備 考
I. 事業費				
普及活動費	6,500,000	5,226,949	減 1,273,051	
技術調査費	3,700,000	1,032,236	減 2,667,764	
小 計	10,200,000	6,259,185	減 3,940,815	
II. 管理費				
会議費	2,000,000	1,880,014	減 119,986	
旅費交通費	300,000	307,636	増 7,636	
通信費	250,000	329,804	増 79,804	
印刷消耗品費	150,000	131,666	減 18,334	
渉外費	150,000	158,540	増 8,540	
事務協力費	2,000,000	2,000,000	0	
雑費	50,000	12,982	減 37,018	
小 計	4,900,000	4,820,642	減 79,358	
III. 予備費				
予備費	2,139,303	0	減 2,139,303	
合 計	17,239,303	11,079,827	減 6,159,476	

当期収支差額 5,338,491 円

貸借対照表

平成 28 年 5 月 31 日現在

日本介護食品協議会

単位：円

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
現金	122,410	剰余金	5,338,491
普通預金	5,216,081		
合 計	5,338,491	合 計	5,338,491

損益計算書

平成 27 年 6 月 1 日から 平成 28 年 5 月 31 日まで

日本介護食品協議会

単位：円

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
諸経費	11,079,827	入会金	250,000
剰余金	5,338,491	会費	14,500,000
		催事出展企業負担金	100,000
		雑収入	259,015
		前期繰越金	1,309,303
合 計	16,418,318	合 計	16,418,318

財 産 目 録

平成 28 年 5 月 31 日現在

日本介護食品協議会

単位：円

科 目	金 額	摘 要
資 産 の 部		
現金	122,410	
普通預金	5,216,081	三井住友銀行丸ノ内支店
合 計	5,338,491	
負 債 の 部	0	
正 味 財 産	5,338,491	

以上の通りであります。

平成 28 年 7 月 8 日

会 長	森 佳光
副会長	森田 勉
理 事	納 裕子
同	高野 昭彦
同	森川 聡
同	中島 利行
同	竹内 豊
同	黒田 賢
同	川井 義博
同	新谷 敏史

以上各項目について監査を遂げ、その正確なことを証明します。

平成 28 年 6 月 22 日

監 事	宇都宮勝博
同	小澤 宰

< 参考資料 >

第 21 回 日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 演題要旨

※演題名・・・全角換算で 50 文字以内

演題：ユニバーサルデザインフード（UDF）における官能評価と物性値の関連性の検証

所属：日本女子大学 家政学部 調理科学研究室*1、日本介護食品協議会 技術委員会*2

演者： *1 岩崎裕子、大越ひろ

*2 熱田正吉、伊藤裕子、畠山健、花村高行、堀本智仁、藤崎享

※抄録本文・・・全角換算で 600 文字以内

【背景】近年、介護食への関心の高まりに伴い、基準の整備が進められている。「ユニバーサルデザインフード(以下、UDF)」(日本介護食品協議会、2002 年)、「えん下困難者用食品」(消費者庁、2009 年)、「嚥下食ピラミッド」(金谷節子、2004 年)に加え、2013 年には本学会の「嚥下調整食分類 2013」、2014 年には農林水産省から「新しい介護食品(スマイルケア食)」が発表された。それぞれの基準で対象や目的は異なるが、指標として物性値を採用しているものが多い。そこで UDF の物性値測定、官能評価を実施し、物性値と食感の関連性を検証することとした。

【方法】試料は UDF 区分 1~4 の計 23 品。官能評価者 16 名に対し、「つぶしやすさ」「べたつきやすさ」「まとまりやすさ」「飲み込みやすさ」「残留しやすさ」について官能評価を実施した。喫食温度は室温、喫食量は 5 g、回答方法は、基準とするおかゆを 4 として 1~7 の 7 段階とした。物性評価は、TPA 測定(えん下困難者用食品測定法準拠、20℃)とし、官能評価結果との関連性を調べた。

【結果】「かたさ」は、試料全般で「つぶしやすさ」と高い相関関係がみられた。それに対し、「付着性」・「凝集性」は、均質性の高い区分 3・4 では「べたつき」「残留しやすさ」「飲み込みやすさ」と相関関係があったが、常食に近い区分 1・2 ではそれらの官能評価項目との乖離が見られた。この結果から、「付着性」・「凝集性」については、食感との対応は限定的であることが示唆された。

【考察】学会分類に示された UDF との対応説明は概ね正しいことが確認できた。ただ UDF 区分によっては得点率の低い項目があった。これは「かたさ」以外の物性値(付着性、凝集性など)が関与していると推測できることから、学会分類に配慮した製品設計のためには、これらの物性値についても考慮が必要と考えられる。

平成 28 年度事業計画（案）

1. 普及啓発事業

基本方針

一般消費者および栄養士・管理栄養士・ケアマネージャー・訪問看護師など各関連職種に対して、ユニバーサルデザインフードおよび日本介護食品協議会の周知徹底を図る。今年度については、介護従事者への啓発及び、これら職種から在宅への情報伝達を積極的に進める。

また、UDF マーク表記方法の変更に際し、新規啓発資料の制作、ホームページやパンフレット等既存ツールの掲載情報の更新を行う。これらを催事等の機会に配布・活用し一層の普及啓発活動を進める。

具体的な事業については、市販用や業務用ワーキンググループ等にてそれぞれ検討・実施する。

1) ホームページの活用

(1) 各ターゲット層への有効な情報発信

- ① UDF マーク表記方法変更に伴い、情報の更新および必要に応じて解説ページ等を加えていく。
- ② 一昨年度から実施している新規コンテンツのうち、施設従事者向けページの制作を継続し内容を充実させる。これにより、食品メーカー（メディア等含む）向け（総合案内）ページ、一般消費者向けページ、施設従事者向けページの各ターゲット層へユニバーサルデザインフードの情報を効率よく、わかりやすく伝えることを目指す。
- ③ 「リンク集」について、関係団体等への相互リンク掲載の整理・掲載数の拡大を図る。
- ④ 「商品のご案内」ページを会員企業にて管理し、新商品等の情報を積極的に掲載し充実を図る。
- ⑤ 組織強化の観点から、本年度についても「缶詰時報」掲載の「日本介護食品協議会コーナー」をホームページに掲載し、介護食品関連企業へも情報を発信する。

(2) キャンペーン等の実施

ホームページを活用した事業として、「プレゼントキャンペーン」を実施する。昨年度に引き続き、初夏と秋（介護の日）、の 2 回実施し閲覧者（利用者）の誘導を図り、協議会並びにユニバーサルデザインフードの認知拡大を図る。

2) ツールを利用した積極的啓発活動の実施

- (1) 協議会パンフレットの等啓発資料の新規作成・更新・配布

UDF マーク表記方法変更について、市販から業務用の各利用者へ周知を行うための新規資料の制作、協議会パンフレットや「食べる力のサポートブック」など既存パンフレット等の再作成を行い、学会・展示会・勉強会などでの配布や、DM による情報発信を積極的に行い、ユニバーサルデザインフードの一層の周知を図る。

(2) 介護従事者が活用できる食べる機能の判断用ツールの作成（継続）

在宅方面へのユニバーサルデザインフードの啓発・浸透は、協議会設立以来の課題となっている。在宅被介護者への接触機会の多い職種として、訪問歯科医師、訪問歯科衛生士、訪問栄養士等を取り上げ、これら職種へのユニバーサルデザインフードに対する理解を一層深められるよう、在宅方面への啓発・浸透を目指した活動を実施する。

これにあたり、これら職種や在宅での活用に資するツール（リーフレット様式など）を作成し、ユニバーサルデザインフード使用者を増やしていく取組を継続する。

本事業の実施にあたっては、普及委員会の市販用ワーキンググループにより具体的な取り組みを行っていく。

(3) 「缶詰時報」の活用

「缶詰時報・日本介護食品協議会コーナー」にて、協議会活動およびユニバーサルデザインフードの啓発を図る。

(4) プレスリリースの配信

協議会活動とユニバーサルデザインフードの一層の周知および会員企業増加に資することを目的に、加工食品業界および一般新聞等各種メディアに対して積極的に協議会の活動状況や介護食品業界関連の情報提供を行う。さらに、会員企業の発行するプレスリリースも活用し、これら情報提供機会の増大を図る。

3) 学会・展示会等への積極的参加

本年度は栄養士、管理栄養士、訪問看護師等の関連職種へのさらなる啓発を目的に、下記の催事に出展する。

(1) 第 22 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会

期日 平成 28 年 9 月 23 日（金）・24 日（土）

会場 朱鷺メッセ（新潟市）

参加内容 ユニバーサルデザインフード商品の紹介、パンフレットの配布等を実施する。

(2) 第 43 回国際福祉機器展

期日 平成 28 年 10 月 12 日（水）～14 日（金）

会場 東京国際展示場（江東区）

参加内容 1 コマ分出展し、ユニバーサルデザインフード商品の紹介等を

実施する。

(3) メディケアフーズ展 2017

期日 平成 29 年 1 月 25 日 (水)・26 日 (木)

会場 東京国際展示場 (江東区)

参加内容 企業展示に出展し、パンフレット、サンプル等の配布を行う
他、セミナーを実施して栄養士等の専門職に対して効果的な啓発を行う。

(4) 第 32 回日本静脈経腸栄養学会学術集会 (JSPEN 2017)

期日 平成 29 年 2 月 23 日 (木)・24 日 (金)

会場 岡山シンフォニーホール等 (岡山市)

参加内容 企業展示に出展し、パンフレット、サンプル等の配布を行い
栄養士等の専門職に対して効果的な啓発を行う。

この他、必要に応じた催事への出展を検討する。

4) キャンペーンの実施

一般消費者のユニバーサルデザインフード認知機会の増大を図ることを目的に、適宜プレゼントキャンペーンを実施する。

・協議会ホームページを使ったキャンペーン

①初夏の爽やか UDF プレゼントキャンペーン (6 月)

②「介護の日」UDF プレゼントキャンペーン (11 月)

利用者やその家族等を応募者に見込み、ユニバーサルデザインフードサンプルやパンフレット、小冊子等をプレゼントする。会員企業の協力により、常温・冷凍ユニバーサルデザインフード商品サンプルセットを計 100 名分用意。応募者多数の場合は抽選を実施し、選定する。

5) 地域開催勉強会等への参加

昨年度に引き続き、地域のケアマネージャーや介護士、ヘルパーなどの介護関連職種、地域住民に対しての情報提供を積極的に行っている地方社協等と連携を図り、関連媒体への情報掲載や勉強会開催などを通じて在宅方面へユニバーサルデザインフードの情報を発信していく。

2. 技術関連事業

基本方針

ユニバーサルデザインフードの普及を支える規格や科学的データの充実を図り、分かりやすく、利用しやすいユニバーサルデザインフードにする。

UDF マーク表記方法変更に伴い、ユニバーサルデザインフード自主規格の改訂版を作成する。

また、共同研究ワーキンググループおよび UDF 試食会ワーキンググループによる、産学におけるユニバーサルデザインフードの研究を引き続き実施する。その成果を学会等で発表することにより、本業界でのユニバーサルデザインフードの価値を益々高めるよう努める。

1) ユニバーサルデザインフード自主規格補完のための研究活動

ユニバーサルデザインフード自主規格の懸案事項の解決に向け、本年度は以下のテーマについての研究を、必要に応じて学術機関との連携をとりながら行う。これら研究の成果については、協議会会員企業が等しく参照・共有できるような形をもって作成し、今後、会員各社がこれを利用することで、ユニバーサルデザインフード製品の一層の信頼性を確保していく。

- (1) UDF マーク表記変更に伴う運用方法の見直しと自主規格改訂版作成
- (2) 物性の変化する食品の測定方法と区分の考え方について
- (3) UDF の自主規格遵守と客観的説明に資する製品申請方法について*

(*過年度からの継続課題。1) 事業に準拠した内容の書き換えを行い運用を開始する)

2) 共同研究事業

今年度は、ユニバーサルデザインフードにおける官能面および物性面での関連性の検証ならびに物性測定方法の検証をテーマに、食品の官能面・物性面でのエビデンス収集と学会での研究成果発表を実施する。

UDF や「嚥下調整食分類 2013」(日本摂食・嚥下リハビリテーション学会)等、食べやすさに対する配慮を考えた食品の基準についての評価を官能面、物性面から実施し、適切なエビデンスを収集する。さらに、その結果について学会学術大会で発表を行い、さらに学会誌等への報文投稿を見込む。

これにあたり、日本大学短期大学部食物栄養学科との共同研究を実施する。学会発表については、同研究成果の一部を第 22 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会で行う予定。

また、本共同研究では引き続き物性測定の方法に関する検証も並行して実施する予定にしている。これにより、現在のユニバーサルデザインフード試験方法からは測定手順の設定が困難な「温度により状態(物性)が変化するもの」などについて、ユニバーサルデザインフードとして基準化していくことを見込

んでいる。

3) ユニバーサルデザインフード官能検査会の実施

ユニバーサルデザインフード各製品の規格保持を主眼とし、同時に製品開発や各社担当者のスキルアップ等に見込み、官能検査会（試食会）を実施する。

本件の実施に際しては、上記目的の他、共同研究事業ともリンクさせ、得られた結果を自主規格の向上や学会発表の資材として有効に活用する。

また、本件は UDF 試食会ワーキンググループを中心に企画・立案を行っていく。

4) 研究成果の外部への PR 活動

技術委員会で検討した研究テーマについて、その成果を学会および学術誌等を通じて発表し、協議会の技術的活動面について関連組織、研究者、企業等へアピールする。

今年度については、第 22 回日本摂食・嚥下リハビリテーション学会学術大会において、日本大学（日本女子大学から引き継ぎ）と共同研究を行っている件（事業 2）) について、「ユニバーサルデザインフード (UDF) における「美味しさ」と「食べやすさ」の関連性検証」としてまとめ、発表を行う予定。

5) 容器包装に関する規格化の検討

設計配慮事項となっているユニバーサルデザインフード容器包装について、具体的な容器要求性能の内容及び規格化の可能性を検討する。

(1) 容器用語集の作成

今年度は、ユニバーサルデザインフードをはじめ加工食品に利用される容器包装に関する専門用語を解説した用語集を作成する。会員企業に対し、社内研修などの機会に活用できるよう成果を共有する。

(2) ユニバーサルデザインフードに適した容器の紹介

昨年度に引き続き、容器包装メーカーの立場から、ユニバーサルデザインフードに適した容器についての提案・解説集を作成する。ユニバーサルデザインフードに資する容器の特徴について、エビデンスとともに会員用ホームページやメール配信を通じて会員企業に共有する。

(3) 食品メーカー対象の勉強会開催

(1) および (2) で作成した解説集を、普及・技術委員会等会員を対象とした勉強会の開催などで活用する。

6) 講演会の開催

各社の商品開発や懸案事項解決など、会員各位の意識向上やさらなる知識の習得に資することを目的に、ユニバーサルデザインフードに関連する領域をテーマとして、医科、歯科、学術機関等の第一人者を招聘し、協議会員を対象に講演会を開催する。

本年度は第 15 回定期総会に日程をあわせ、(一財) 日本食品分析センター試験研究部 部長 藤田和弘先生に講演を依頼する。

7) 海外での「ユニバーサルデザインフード」商標登録出願の検討(継続)

近年では、近隣のアジア各国においても我が国と同様の高齢化率進展が予測されており、介護食品に関する研究等が国や研究機関、民間企業において進められつつある。この中、我が国の介護食品に対する考え方やユニバーサルデザインフード規格基準について、自国の制度の参考にしたいとの問い合わせ等が、協議会や国内の研究機関、企業に対してなされ始めている。

これを受け、協議会では国内での商標登録にとどめていた「ユニバーサルデザインフード」(文言、ロゴマーク等)について、商標保護の観点からこれらの近隣諸国を対象として商標登録出願の検討を継続する。

3. 調査事業

1) 生産統計調査の実施

平成 15 年度から開始したユニバーサルデザインフードの生産実績調査を本年度も引き続き実施する。

2) UDF マーク表示変更に伴う一般生活者対象調査の実施

ユニバーサルデザインフードの認知度や利用状況について調査を実施する。

4. 組織強化事業

本事業は、日本介護食品協議会の存在ならびに、「ユニバーサルデザインフード」について、多くの関係企業に向けて積極的に情報伝達することにより、さらに新規会員企業を獲得し一層の組織強化を図ることを目的に設定した。

本事業は組織強化委員会が活動方針を立案・統括し、具体的事業については普及啓発、技術関連事業に包含させ実施する。

今年度は、昨年度に引き続き、介護食品業界における更新情報についての精査、並びに協議会の活動方針等の確認・決定について、理事会とも連携しながら協議し、事業を行っていく。

最先端かつ高い市場性をもつユニバーサルデザインフードについて、今後技術面のさらなる整備や利用者目線での普及の両立により、業界のリーダー役として協議会の魅力度アップを積極的に図っていく。

5. UDF マーク表示変更事業

設立以来、利用者の選択に資する製品の供給を理念に掲げ、自主規格の策定・運用により製品等への表示を行ってきた。本協議会では、今後についても同理念に基づき活動を継続していく。

一方、昨今の介護食品産業を取り巻く環境をみると、新たな規格基準の提案が

なされるなど今後の当該市場において変化が予測される。

このような時勢を受け、日本介護食品協議会では今後ユニバーサルデザインフード表示方法の見直しを行っていく。

これに当たり、まずはユニバーサルデザインフードに対する利用者調査を実施し、利用者に理解しやすい表示方法について再度検討する。

以降、ユニバーサルデザインフード自主規格をはじめ、パンフレット等資料、ホームページ掲載内容等を改訂していく。

本事業については、普及啓発事業、技術関連事業等に含め実施していく。

* 第4章 - 5. 指定ロゴマーク及び用語の改訂運用基準新旧対照表 (35 ページ)

** 関係各位宛て UDF マーク表示方法変更についてご案内 (39 ページ)

6. その他の事業

- ・ 農林水産省が実施する介護食品に関する事業への協力

機会に応じて、そしやく配慮食品 JAS 等に係る情報交換や介護食品に関する意見等の発信を産業界の立場で行っていく。

平成 28 年度収支予算書（案）

平成 28 年 6 月 1 日から 平成 29 年 5 月 31 日まで

日本介護食品協議会

単位：円

＜収入の部＞

科 目	本年度予算	前年度予算	対比増減	摘 要
I. 前期繰越金	5,338,491	1,309,303	増	4,029,188
II. 入会金収入				0
入会金	250,000	250,000		0
III. 会費収入				0
会費	26,640,000	15,400,000	増	11,240,000
IV. 雑収入				
催事出展企業負担金	200,000	200,000		
雑収入	80,000	80,000		0
合 計	32,508,491	17,239,303	増	15,269,188

＜支出の部＞

科 目	本年度予算	前年度予算	対比増減	摘 要
I. 事業費				
普及活動費	13,200,000	6,500,000	増	6,700,000
技術調査費	6,210,000	3,700,000	増	2,510,000
小 計	19,410,000	10,200,000	増	9,210,000
II. 管理費				
会議費	2,000,000	2,000,000		0
旅費交通費	300,000	300,000		0
通信費	250,000	250,000		0
印刷消耗品費	250,000	150,000	増	100,000
渉外費	150,000	150,000		0
事務協力費	6,870,000	2,000,000	増	4,870,000
雑費	50,000	50,000		0
小 計	9,870,000	4,900,000	増	4,970,000
III. 予備費				
予備費	3,228,491	2,139,303	増	1,089,188
合 計	32,508,491	17,239,303	増	15,269,188

平成 28 年度会費等の賦課徴収方法(案)

本協議会の会費等は下記により徴収する。

記

1. 会費及び入会金の額

- 1) 会費：会員 1 社につき 年 360,000 円とする。
- 2) 新規加入会員の入会金：1 社につき 50,000 円とする。

2. 徴収方法

事業年度当初に全額徴収する。

新規加入会員については、加入の際に会費並びに入会金の全額を徴収する。
ただし加入時点において当該事業年度の 1/2 以上の期間を過ぎている場合は、
加入年度の会費の額の 1/2 を免除する。

以上

日本介護食品協議会 会則改定案 (新旧対照表)

改定案	現行
<p>制定 平成 14 年 4 月 26 日 変更 平成 28 年 7 月 8 日</p> <p>第 1 条 本会は日本介護食品協議会（以下「本会」という。）と称する。 2 英文名標記を、<u>JAPAN CARE FOOD CONFERENCE</u>（略称 JCF）とする。</p> <p>第 2 条～第 4 条 （略）</p> <p>第 5 条 <u>本会の会員は介護食品の製造販売等をするものをもって組織する。</u></p> <p>第 6 条 （略）</p> <p>第 7 条 <u>会員は理事会において別に定める退会届を提出し、退会することができる。</u></p>	<p>制定 平成 14 年 4 月 26 日</p> <p>第 1 条 本会は日本介護食品協議会（以下「本会」という。）と称する。</p> <p>第 2 条～第 4 条 （略）</p> <p>第 5 条 本会の会員は（公社）日本缶詰びん詰レトルト食品協会の会員、または賛助員であって介護食品の製造販売等をするものをもって組織する。</p> <p>第 6 条 （略）</p> <p>第 7 条 会員は 90 日前（3 カ月）までに退会届を提出し、退会することができる。この場合書面により予告して退会することができる。</p>

<p>第8条～第11条 (略)</p> <p><u>第12条 役員は総会において会員のうちから選任する。</u></p> <p>第13条～第31条 (略)</p> <p>(附則)</p> <p>1. 細則 本会の施行に関する細則は理事会の議決を経て決める。</p> <p>2. 発効 <u>本会則は平成28年6月1日より効力を生ずる。</u></p>	<p>第8条～第11条 (略)</p> <p>第12条 役員は総会において会員及び(公社)日本缶詰びん詰レトルト食品協会の理事のうちから選任する。</p> <p>第13条～第31条 (略)</p> <p>(附則)</p> <p>1. 細則 本会の施行に関する細則は理事会の議決を経て決める。</p> <p>2. 発行 本会則は平成14年4月26日より効力を生ずる。</p>
---	--

ユニバーサルデザインフード自主規格第2版（新旧対照表）

第4章 - 5. 指定ロゴマーク及び用語の改訂運用基準

平成28年7月8日

改訂案	現行
<p>第4章 ユニバーサルデザインフードの表示に関する自主基準</p> <p>5. 指定ロゴマーク及び用語の運用基準 <u>会員が製造・販売者である商品で、「ユニバーサルデザインフード製品規格」に適合し、協議会に届け出て受理された場合、指定ロゴマーク（および区分形状）を表示することができる。</u></p> <p>5-1 (略)</p> <p>5-2 表示方法 1) 表示の位置 (1) (略) <u>(2)区分形状 消費者が分かりやすいように「区分形状」を指定ロゴマークに近接して表示する。ただし、アイスクリーム類についてはこの限りではない。</u></p>	<p>第4章 ユニバーサルデザインフードの表示に関する自主基準</p> <p>5. 指定ロゴマーク及び用語の運用基準 <u>会員が製造・販売者である商品で、「ユニバーサルデザインフード製品規格」に適合し、協議会に届け出て受理された場合、指定ロゴマーク（区分数値、区分形状を含む）を表示することができる。</u></p> <p>5-1 (略)</p> <p>5-2 表示方法 1) 表示の位置 (1) (略) <u>(2)区分数値および区分形状 消費者が分かりやすいように「区分数値」および「区分形状」を指定ロゴマークに近接して表示する。ただし、アイスクリーム類についてはこの限りではない。</u></p>

※表示例：なお、製品への実際の印刷表示事例は「指定ロゴマークの使用パターン」として別 に示す。



(3)区分表記

下表を表示することが望ましい。区分形状の用語 は省略しても差し支えない。

区分形状			
区分形状	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる
	舌でつぶせる	かまなくてよい	

※表示例：なお、製品への実際の印刷表示事例は「指定ロゴマークの使用パターン」として別 に示す。



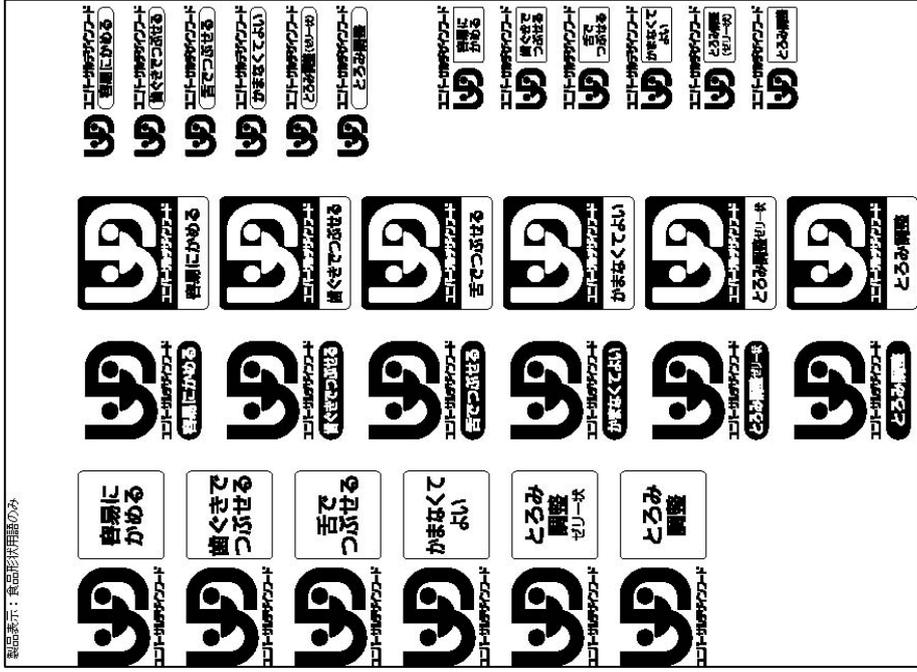
(3)区分表記

下表を表示することが望ましい。区分数値と区分形状の用語 は省略しても差し支えない。

区分数値と区分形状			
区分数値	1	2	3
区分形状	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる
			かまなくてよい

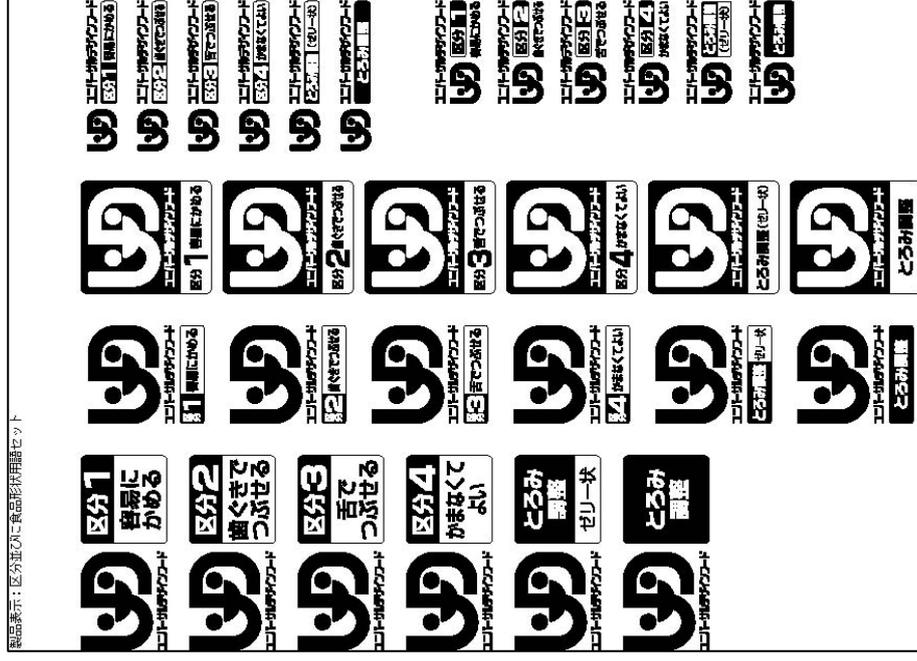
<p>(略)</p> <p>2) 表示の大きさ (1) (略)</p> <p><u>(2) 削除 以下番号繰り上げ</u></p> <p><u>(2)区分形状</u> 文字サイズは 10 ポイント以上とし、字体、枠囲い等のデザイン処理は任意とするが次に示す「指定ロゴマークの使用パターン」によるもの 望ましい。 <u>「とろみ調整食品」についても同様とする。</u></p> <p>3) 表示の色 (略)</p>	<p>(略)</p> <p>2) 表示の大きさ (1) (略)</p> <p><u>(2)区分数値</u> <u>①「区分」の語句に続き、算用数字の 1～4 を記載する。</u> <u>②区分 1～4 に該当しない「とろみ調整食品」については「区分」の語句を省略し、「とろみ調整」と記載し、字体、枠囲い等のデザイン処理は任意とするが、次に示す</u> <u>「指定ロゴマークの使用パターン」によるものが望ましい。</u></p> <p><u>(3)区分形状</u> 文字サイズは 10 ポイント以上とし、字体、枠囲い等のデザイン処理は任意とするが次に示す「指定ロゴマークの使用パターン」によるもの 望ましい。</p> <p>3) 表示の色 (略)</p>
--	---

2. 製品表示：区分形状用語セット



2. 製品表示：区分数値並びに区分形状用語セット-1

2. 製品表示：区分数値並びに区分形状用語セット-2



関係各位

UDF マーク表示方法の変更についてご案内

日本介護食品協議会
会長 森 佳 光

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は本協議会の運営に多大なご協力を賜り誠にありがとうございます。

本協議会は平成 14（2002）年の設立以来、介護用加工食品の業界自主基準の策定・運用を以て「ユニバーサルデザインフード」の普及を推進してまいりました。現在では、会員企業数 70 社、UDF 商品登録数およそ 1,800 品目、UDF 生産金額は 200 億円以上と年々規模を拡大しているところであり、UDF マークはもはや介護食品のブランドと位置付けられております。

さて、現在ユニバーサルデザインフードの商品には、ご存じのとおりメーカー共通の表示として、UDF マークと食べやすさの区分である「容易にかめる」「歯ぐきでつぶせる」「舌でつぶせる」「かまなくてよい」の文言と、これにあわせた 1～4 の区分を表す数値を表示し、利用者の商品選択時の理解に配慮してまいりました。

一方、昨今では介護食品に関する新たな規格が提案されるなど、今後ユニバーサルデザインフードを取り巻く環境の変化が予測されております。このような中、協議会では販売の現場や商品の選択における利用者の混乱を避け、より分かりやすく表示を行っていくことが肝要と考えました。そこで、利用者が実際の商品選択に際して注視する点についてあらためて調査を行うとともに検討を重ねてまいりました。

この結果、利用者が商品の選択時にもっとも参考としている表示は、「容易にかめる」などの内容物の状態をあらわす文言であることがわかりました。

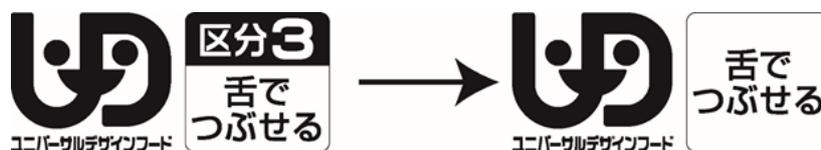
従いまして協議会では、各メーカーの UDF マーク商品の表示から、1～4 の区分数値を削除し、「容易にかめる」等の文言を中心とした表示を行っていくことがもっともわかりやすく適切であると判断し、今後表示方法をこれにあらためることといたしました。

なお、同表示方法については今後各メーカーにて順次変更を行っていく予定にしております。

関係各位におかれましては、本件につきご周知賜りたくお願い申し上げます。

新しい UDF 表示の例

敬具



区分数値を削除して表示

ユニバーサルデザインフード



ユニバーサルデザインフード

の表示が新しくなります！



ユニバーサルデザインフード

これまでの表示



ユニバーサルデザインフード

これからの表示

いつもユニバーサルデザインフードをご利用いただき誠にありがとうございます。

日本介護食品協議会では、このほど「ユニバーサルデザインフード（UDF）」マークの表示方法を、より見やすく分かりやすくするために、区分を表す番号を削除して食品の状態を表す「容易にかめる」などの文言のみの表示に統一してまいります。

この表示については今後各メーカーにて順次変更を行っていく予定にしております。

今後も安心してお使いいただくためにUDFは進化し続けます！

区分	容易にかめる	歯ぐきでつぶせる	舌でつぶせる	かまなくてよい
かむ力の目安	かたいものや大きいものはやや食べづらい	かたいものや大きいものは食べづらい	細かくてやわらかければ食べられる	固形物は小さくても食べづらい
飲み込む力の目安	普通に飲み込める	ものによっては飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらいことがある	水やお茶が飲み込みづらい
かたさの目安	ごはん	ごはん～やわらかごはん	やわらかごはん～全がゆ	ペーストがゆ
	さかな	焼き魚	煮魚	魚のほぐし煮（とろみあんかけ）
	たまご	厚焼き卵	だし巻き卵	スクランブルエッグ
	調理例（ごはん）			

※食品のメニュー例で商品名ではありません。

お問い合わせ

〒101-0042 東京都千代田区神田東松下町10-2

翔和神田ビル3階（公社）日本缶詰びん詰り汁食品協会内



ユニバーサルデザインフード

日本介護食品協議会

TEL: 03-5256-4801 FAX: 03-5256-4805 <http://www.udf.jp/>